



検査條例

1515





凡全國ノ收入ヲ量リテ終歲ノ支出ヲ為スハ
 國家會計ノ大項ナリ是ノ故ニ收支ノ順序精整
 ナレハ將來ノ費額一定シテ動カス不虞ノ用需
 百出シラ慾ハス量為ノ方法周密ナレハ勉メテ
 増殖ヲ加ヘスト雖モ繁富ノ實目ヲ備ハリ強イ
 ラ減省ヲ湏ヒスト雖モ裁制ノ道隨テ致スヘシ
 蓋シ量為ノ方法ト收支ノ順序トハ理財ノ最モ
 欠ク可カラサル要務トス然ルニ此二件ノ如キ
 未タ曾テ實際施行スルノ明文ヲ見ス是レ
 他ナシ因習遠カニ変シ難タケレハナリ嚮キニ
 戊辰隆興ノ運ニ會セシ以來百般更正ヲ經テ收
 支決算ノ規則弱ク將サニ精確ナラントス續テ

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

明治六年ニ至ル始メテ歳入歳出ノ計表ヲ製シ
人民ヲシラ公ニ全國ノ會計ヲ詳知セシムルト
雖モコレ猶オ概計ヲ示スモノニシテ到底收支
ノ年度ヲ異ニスルヨリ其確實ノ計算ニ至ラハ
實ニ整理シ難キノ甚シキニ屬ス此ニ於テ乎嚮
キニ年度改正ノ意見ヲ建議シ續テ検査法改正
ノ命ヲ蒙ル是レ誠ニ本寮ノ当務ニシテ検査頭
ノ責任ナリ而シテ其法タルヤ専ラ年度ノ區域ヲ
正フシ其出入ノ計算ヲ明ニシ以テ豫算精算ノ
方法ヲ設立シ更ニ前年ノ歳尾ニ於テ翌年周歲
ノ收支ヲ豫定シ即テ其年ノ收入ヲ以テ其年ノ
支出ヲ為シ其收入支出セル處ノモノ實地ニ就
テ之ヲ追調督査スルノ規ヲ設ク以テ豫算ヨリ

精算ニ至ル迄詳悉検査スルノ法則ヲ一定セシ
テ之ヲ要スルニ在リ此法全ク備ラサレバ何ヲ以
テ歳入歳出ノ多寡ヲ勘査シ何ヲ以テ國家費用
ノ大計ヲ統理スルヲ待ンヤ然リ而シテ之ヲ實踐
スルニ及ラハ又テ其順序ナカル可カラズ依ラ
數條ノ例則ヲ查定シ謹テ高裁ヲ仰フ

明治 年

検査頭安藤就高

大藏卿大隈重信殿

検査條例

凡ソ金穀出納検査ノ事務タル會計ノ年度ニ基キ
全國收支ノ多寡ヲ照檢シ終歲供給ノ當否ヲ稽查
シ甲部乙部準備ノ區域ヲ着明ニシ前途ノ貸額ヲ
豫計シテ將來ノ費項ヲ豫定シ每件或規定例ニ照
シテ悖入濫出ナカラシメ以テ其計算ヲ審密ニス
ルモノニシテ會計上最モ欠ク可カラサルノ要領
タリ故ニ今其方法ヲ詳ラカニスル為ノ條例ヲ定
マルコト左ノ如シ

○第一款 歳入出豫算計表ノ事

第一節

會計ノ年度ハ甲年七月ヨリ乙年六月ニ至

ルヲ以テ一歲ト定ム起曆年ノ八月ニ終ル
モハハズ會計年切シテ此一歲中收入

へキノ金穀ハ前年會計年度^下度^上於^テ其額ヲ豫定シ以テ其年百股ノ經費ニ充用スルノ月途ヲ足立シ收入金穀ノ科目ト支出金穀ノ該月ヲ歴々列載シテ一篇ノ計表ヲ製シ之ヲ公布ス名^ケラ歲入支出豫算會計表ト云フ即チ一歲會計ノ綱領トスルモノナリ

第一節 一歲收入支出スル金穀ノ多寡ヲ調理シ歲費ノ月途ヲ確立スルハ會計ノ大基礎タルヲ以テ右長官ハ明治八年三月二十六号ト同年五月十八日及ヒ 弟 号ノ公達ニ擬リ前年ニ於テ先ツ翌年一歲收入ノ第一回報告書ヲ調成シ四月二日ヲ期トシ

第二節

第三節

其廳ヲ登シ大藏卿ニ送致スルモノトシテ大藏卿ハ右長官ノ報告書到達スルニ随ヒ直ラニ之ヲ検査頭ニ付ス而シテ検査頭ハ此報告書ヲ整理スルニ当リ先ツ前正々年三ヶ年或ハ前一ヶ年ノ實納實費ト比較照査シ該額ノ増減ヲルモノハ其事由ヲ其廳ニ推究スヘキモノトス

第四節

一般歲入出ノ金額ヲ合計スルニ方リ若シ收入ノ金額支出ノ負額ニ不及シテ不足ヲ生スル等ノ事マレハ検査頭ハ見込書ヲ作シ大藏卿ニ出スヘキトス

第五節

検査頭ハ右長官ノ報告書ヲ整理シ了レハ收入ノ米税月ヲ彙集シ支出ノ額内外照料

ノ三賞等ヲ區分シ毎科該員ヲ登録シ出入
出豫算内訳明細簿ヲ製シ右長官ノ報告ヲ
添付シ^{常用并備}區分ス豫算會計表ヲ製スルノ根
基トシラ六月五日ヲ期之ヲ大藏卿ニ出
ス可キトス

第六節

大藏卿ハ検査頭ヨリ差出シタル處ノ歳入
出内訳明細簿ヲ檢閲シ了ラ之ヲ統計頭
付シ六月廿日ヲ期シ歳入出豫算會計表ヲ
作ラシメ理財ノ法案ト右長官ノ報告書ト
ヲ添付シ以テ正院ニ出ス正院於六月
三十日ヲ期シ議定スルモノトス
歳入出豫算裁定ヲ經テ一般公告アルノ際
受ニ毎廳收入經費ノ内訳ヲ詳記シタル簿

第七節

冊ヲ該長官及ビ大藏卿ニ公達アルヘシ而
シテ大藏卿ハ該書類ヲ検査頭ニ付シ検査
頭ハ之ヲ以テ歳入出金數ノ計數ヲ追徵精
理スルノ根基トス

○第二款 右長官ヨリ送致スル第二回以
下ノ報告書ヲ追調スル事

第一節

右長官ノ報告書ハ一歳ニ五回ヲ要ス其必
一回報告ハ一歳ノ収出ヲ豫算セシモノナ
レハ第一款ニ於テ其順序ヲ詳ニス第二回
以下ノ報告ハ豫算ト實際トヲ比較追調シ
其實況ヲ報告スルモノナレハ之ヲ整理ス
スルノ順序ヲ第二節以下ニ掲ク

第二節

第二回以下ノ報告ハ現實收入スルモノ

ト支出スルモノトノ負數ヲ担テ第一ノ七
節ニ掲ラシ大藏卿ヨリ下付スル處ノ内訳
簿ト對照シ歲入出ノ月途高ヨリ増殖スレ
モノ及ヒ不足スルモノヲ精査シ以テ入
出ノ計數ヲ調理ス
第三節 第二回以下ノ報告ハ調査勘算スルノ後右
廳ヲ集計シ毎回比較表ヲ製シ大藏卿及
正院ニ出ス

○第三款 收入支出ノ勘定帳ヲ調査勘算
スル事

第一節 地租其他租稅寮ニテ徵收スレモノハ同寮
ニテ毎一月毎三月ノ報告ヲ製シテ大藏卿
ニ出シ其檢閲ヲ經テ以テ検査頭ニ授與ス

ルシ程規トス而シテ每一月ノ報告ハ徵收
セシ金數ノ該額ト年度トシ統計シ毎三月
ノ報告ヲ稅務省廳府縣ト年度計片トシ詳明
ニ判別スルモノトス

第二節 検査頭ハ租稅月報ヲ領受スルニ方リ第四
款三節ニ掲ル追算簿ニ照合シ其負額ヲ算
定シテ遺脱差違ヲキテ保ス可シ而シテ毎

一月ノ月報ハ一冊ヲ検査寮ニ止メ一冊ハ
統計頭ニ送致シ毎三月ノ月報ハ一冊ヲ檢
査寮ニ止メ一冊ハ第四款五節ニ掲ル決算
證書ヲ交付シ了ラ後之ヲ統計頭ニ送致ス
租稅報告ハ一般租稅ノ現ニ收納スルモノ
ヲ遺漏ナク登記シ其收額既ニ確定スレ

第三節

第二節

ノニシラ未タ全額納付ニ至ラザルモ
 其事由ヲ詳記スルヲ定規トス故ニ納期ヲ
 過キ未納ニ涉ルモノアレバ検査頭ハ租税
 頭ニ對シ其納入ヲ督促セハシ
 租税頭ハ一般ノ租税一歳ノ收額ヲ領受シ
 了ルニ方リ年報ヲ製シ以テ大藏卿ニ出シ
 其檢閲ヲ經テ検査頭ニ付ス而シテ検査
 ハ其計數ヲ調査勘算シテ差違ナキヲ保ス
 ハシ

第五節
 出納頭ハ收出スル金穀ノ多寡右廳ノ名称
 及ニ其事項類未常用準備年長等ヲ詳明ニ
 シ毎一月計算簿ヲ製シ甲月ニ関スルモノ
 ハ乙月五日ヲ期トシテ調成シ右長官ヨリ

五八

第六節
 差出タル請取証書則チ右一官ノ請取証書
 出ノ名宛モハシテ添付シ以テ大藏卿ニ出
 シ其檢閲ヲ受テ之ヲ検査頭ニ付テ
 検査頭ハ出納頭ノ調成シタル毎一月ノ計
 算簿ヲ接受スルニ隨ヒ第四款一節ニ掲ル
 追算簿ニ照シテ該款事項等ヲ精査調査シ
 了ラ決算簿ノ證書ヲ作リ以テ大藏卿ニ出
 シ出納頭ニ付スルノ順序ヲナシ計算簿ハ
 直チニ統計頭ニ送付スヘキトス

第七節
 右廳出納勘定帳ハ大藏卿ヨリ交付シタル
 一切經費ノ全數ニ就テ定額常費額外常費
 臨時費等ノ區分ヲ詳明ニシ實際消費ノ正
 確ナルト計數ヲ算明テハ

第八節

スル為ノ出納勘定帳簿形及ニ勘定仕
緊要ナル定規ニ基キ精密調整シテ大
藏卿ニ送致ス大藏卿ハ直ニニシテ検査頭
ニ付シテ以テ検査セシムルコトス
検査頭ハ出納勘定帳ヲ領受スルニ随ヒ第
一敷ニ掲ケシ正院カイテ議定シタル右廳
ノ費額ニ再換シテ該額ヲ照査シ而シテ
長官ヨリ出納頭ハ出シタル請取金ノ證書
及ヒ検査頭ハ差出シタル決算亦尙ノ證書
并四款七節ニ照シテ勘定帳元受高ヲ検査
シテ以テ經費ノ出途ヲ分明シテ説明表ヲ
以テ毎科目ノ費額ヲ勘算スハシテ其消
費等成規定例ニ違反スルノ件アルカ或ハ

第九節

甲科目ノ剰余ヲ以テ乙科目ノ不足ヲ補ヒ
或ハ官給ノ費用ヲ民費ニ課スル等ノコト
ル時ハ大藏卿ノ名ヲ以テ右長官ニ達シ之
ヲ再調更正セシムルノ順序ヲナシ
件ニ於テ照會スルニ臨ンテ検査ハシ
右廳經費ノ内其現金穀ハ既ニ支出スルト
雖モ亦夕實費ノ決算ニ至ラサルモノハ大
決算金穀任取帳ヲ製シ大藏卿ニ送致スル
ノ定規タルヲ以テ検査頭ハ該簿冊ヲ大藏
卿ヨリ接受スルニ随ヒ其決算ニ至ラサル
緣由ヲ督査シ計數ヲ勘算スルコトス若
シ其決算遲延スルモノアルハ右長官ニ對
シ推同督促シテ速ニ決算セシムルコトス

第十節

外國ハ注支物品代價ノ如キ物品到着
ハ到着ノ上決算セシムルノ例ニ擬ルハシ
貸付金數ハ大藏省議衆課長ノ管理スル處
ニシテ其貸付及ヒ返納ノ額等毎三ヶ月報
告書ヲ調成シ以テ大藏卿ニ出シ其檢閲了
ラ検査頭ニ付スルノ則トス故ニ検査頭ハ
右長官ヨリ送致スル所ノ貸付金數勘定
ヲ調査スル常ニ此報告ニ照查シテ当否ヲ
明辨シ計數ヲ勘算スルトス
検査頭ハ右長官ヨリ送致スル出納勘定帳
ヲ検査スルニ当リ其身理明瞭ナラサルカ
又ハ計算上確當セサルアルハ右長官ニ對
シ推宛ノ上其身全ク規則ニ違反スルモ

第十一節

ハ規則第何條ニ違反スルヲ以テ決算ニ立
カタキ旨ヲ大藏卿ノ右ヲ以テ該長官ニ送
ス一シ

第十二節

検査頭ハ右長官ヨリ送致スル勘定帳簿上
不明了ノ條多數ニシテ之ヲ推問スルモ身
理明瞭ニ至ラサルカ或ハ會計上ニ於テ錯
雜アルト思為セシハ其旨ヲ大藏卿ニ送
シ検査官ヲシテ該處ニ派出セシメ其計簿
ヲ整理シテ速ニ決算ニ至ラシム一シ
勘定帳簿送
致期限ヲ過タルモハ日限ヲ以テ検査官
シ尚其日限過タルモハ日限ヲ以テ検査官
ヲシテ派出セシム

第十三節

検査頭ハ右長官ヨリ送致セシ勘定帳簿ヲ
大藏卿ヨリ受領シタル日ヨリ二十日以内

第十四節

内ニ調査正算完結ニ至ラシハ例トス
検査頭、一歳経費ノ勘定帳ヲ完結スルノ
後若シ残余ノ金穀ヲラバ概規、換リ還納
セシムルノ順序ヲナス。

第一節

○第四款 歳入出決算會計表ノ事
凡ソ收入支出セシ金穀ヲ追調シ之レカ決
算ヲナサシムルハ検査頭ノ擔理スル所
リ故ニ日々收出スル金穀ハ無違漏計簿ニ
記存ス之ヲ日計簿ト云フ日計簿ニ就テ其
金負事由ヲ撫ヒ甲乙兩部準備ト收入支出
トヲ分テ而シテ右廳ヲ別異シテ一帳冊ニ
登録ス之ヲ追算簿ト云フ
收入支出ノ金穀ハ第三款ニ掲ケシ右長官

第二節

第三節

ヨリ送致スル勘定帳或ハ報告ノ検査了ノ
ラ既ニ決算ニ至レモノハ其計數事由ヲ追
算簿ニ詳記ス若シ其決算遅延スルマレハ
右長官ニ對シ其決算ヲ督促スヘシ
凡ソ收入支出スル處ノ金穀ハ既ニ結算ニ
至ルモノト存ラサルモノト此追算簿ニ
就テ稽查シ收入支出ヲ區分シ每一月計表
ヲ製ス之ヲ追算表ト云フ此追算表ハ甲乙
準備及ヒ右廳ノ收入経費ヲ類別シテ一月
明晰ナルヲ要ス

第四節

追算表ハ甲月間收出シタル金穀ハ乙月二
十日ヲ期シテ三彙ヲ製シ其一彙ハ検査頭
之ヲ止メ一彙ハ統計頭ニ付シ一彙ハ大藏

第五節

卿ニ出シ其檢閲ヲ經テ記録頭ニ付シ以テ
 保存セシムルモノトス
 検査頭ハ右長官ヨリ送致スル收入経費ノ
 勘定帳或ハ報告等ノ検査了ラ既ニ決算完
 結スルニ方リ決算証書ヲ收入金決算ノ証書
 大蔵卿右証書シ長官ニ号付シタルモイッテ
 シラ之ヲ交付シ收入金ハ暴キニ現金敷
 納入スルノ際付與シタル領收ノ証書則チ
 証券係ヨリシラ其長官ニ付與シタルノ際主
 セシメ経費金ハ其金敷ヲ交付スルノ際右
 長官ヨリ差出シタル第一号証券係ニ送付
 リテ返還スルノ順序ヲナス
 租税及ヒ税外收入ノ納額既ニ決定シタル

第六節

第七節

モノニシテ其内若干ヲ納ムルモハ其残
 高ハ期月ヲ限リ納入スヘキ敷或ハ追テ納
 入スヘキ旨ヲ證書長官ヨリ検査頭ニシラ右
 ムヲ以テ差出サシニ記載シ差出サシハ此證
 書ヲ出サシムルハ決算證書ヲ交付スルノ
 時ニ於テスルヲ則トス
 右長官ハ交付セシ處ノ金敷其残ハ決算
 シ残額ハ決算ニ至テサルハ其決算ノ高ハ
 第五節ニ掲ル如ク決算證書ヲ交付シ未決
 算ノ高ハ他日決算スヘキ旨ヲ記載セル證
 書則チ検査頭ノ未決算ノ証書ニシテ右長官ヨ
 ノシラ差出サシメ他日其残高ヲ決算セシ
 メ尚残高アルモ漸次如此ニテ完結ニ至ラ

第八節

シム
每一月毎三月右長官ヨリ差出セル勘定帳
及ヒ報告書ハ實際収出ノ多寡ヲ詳記スル
モノナレハ検査頭ハ此帳簿ノ勘査ヲ経テ
全ク清整ニ歸セシメノニ就テ定額内外ト
臨時費トシ區分シ其科目ヲ別別シ元請高
等ヲ詳明ニシ右廳ヲ介シテ精算表ヲ製シ
精算表調成ノ期限ハ勘定帳等全ク清整ニ
歸セシ日ヨリ九月同月同月同月同月同月
其時々ノ決算報告トシテ正院及ヒ大藏卿
ニ出シ尚一歳毎ニ右廳限リノ合計表作り
又之ヲ總括合計シテ總計表ヲ作り大藏卿
ニ出ス而シテ合計表ハ製成ニ随ヒ直ニ
正院ニ出シ總計表ハ第九節ニ掲ル精算表

第九節

計表ト共ニ正院ニ出ス
前節ニ掲ル精算表ハ右廳ニテ作出スル處
ノ金數ヲ詳明ニセシカ為メ製成スルモノ
ナレハ別ニ豫算會計表ニ掲ル科目ニ就テ
其金數ヲ追調セサルヘカラス改ニ日帯收
出スル處ノモノハ亦款第一節ニ掲ル追算
簿ヨリ登録シテ一帳冊トシテ之ヲ歲入出追
調簿ト稱シ豫算ノ該額ト實際収出スル該
額トヲ差引勘算シテ以テ毎科金負ノ贏餘不
足ヲ調査シ三ヶ月毎ニ豫算實算ノ比較表
ヲ製シテ之ヲ大藏卿ニ出シ其檢閲ヲ経テ
正院ニ出ス
會計年度一周歲ヲ経テ收出金數ノ漸次決

第十節

算ニ至ルニ隨ニ第八節及ニ前年ニ掲ル精算表合
 計表及ニ追調簿等ニ擬リ精算會計表ニ掲ル該
 目ニ照シテ其金負ヲ類聚科分シ詳明ナル内訳
 簿冊ヲ製シテ之ヲ歲入出精算内訳明細簿ト稱シ
 精算會計表ヲ製スルノ基礎トシテ之ヲ大藏卿ニ出ス
 大藏卿ハ内訳明細簿ヲ檢閲シ了ラ統計頭
 ニ付シ以テ精算會計表ヲ作ラシテ第八節
 ニ掲ル總計表ト共ニ正院ニ出シ而シテ精
 算會計表ハ一般ニ公告スルモノトス
 ○第五款 金穀ヲ收出スル順序ノ事
 九ノ收入支出スル處ノ金穀ハ每件必檢査
 頭ノ檢印ヲ經ルニ非レバ出納シテ得
 サルモノトス改ニ其金穀ノ收入スルノ際

第十一節

第一節

ニ方リ之ヲ査定勘理スル 順序ヲ執テ第
 二節以下ニ詳カニス
 第二節 凡ソ收入スル金穀ハ各長官ヨリ大藏卿ニ
 送致スル處ノ文書ニ隨ニ豫算會計表及ニ
 其時々ノ報告ニ照シテ年度科目等ヲ詳明ニ
 シ納入ノ順序ヲナスモノトス
 第三節 定額常費ハ一歳ノ金額ヲ毎月或ハ毎半々
 年ニ分賦シ各長官ニ交付スルモノナレハ
 大藏卿ニ請求スルノ文書ハ檢査頭之ヲ受
 領シ第一款第七節ニ掲テ正院公達ノ額
 ニ照査シテ交付ノ順序ヲナス
 第四節 額外常費モ一歳支給スルキノ費額ハ本款
 第三節ニ全ク正院ノ公達ニ據テ判明ナレ

大藏省

ハ諒費ヲ交付スルニ方リ検査頭ハ此公達ニ就テ当否ヲ照査ス且此經費タルニ事業ノ緩急ニ應スヘキモノニシテ素ヨリ定額ノ如ク期節ヲ逐テ交付スヘキニアラズ而シテ此金額ニ於ル或ハ正院ノ知達ニ因テ交付スヘキアリ或ハ各長官ヨリ直チニ大藏卿ニ稟請スヘキアリ故ニ如此ハ正院ノ知達若シクハ各長官ノ稟申ヲ受付スルニアラサレハ之ヲ交付スヘカラス

第五節

臨時費モ前節ニ全ク正院ヨリ公達アル豫算ノ諒額ニ照査シテ交付スルモノトス且諒費ニ於ル総テ正院ノ允可ヲ經テ後請求スルモノナレハ其知達ヲ受領セシ上

第六節

ラサレハ交付セサルトトク準備收出ノ金負ハ各長官ノ稟申ニ随ヒ豫算會計表ニ掲ル諒目ト成規トニ照シ其年度區分ヲ詳明ニ調査シ收入交付ノ順序ヲ

第七節

凡ソ金穀ノ收出ヲ要スル時ハ各長官ヨリ稟申スル趣旨ニ依リ擔任ノ各寮頭又ハ各課長ハ其請求ニ應シ指令若シクハ回答等ヲ作り百般ノ順序ヲ了シテ後チ其議冊ヲ

検査頭ニ付シ傳票ノ順序ヲナス傳票ハ

第八節

出不ル為シタル公文ナリ
検査頭ハ前節ニ掲クル議冊ヲ受領スルニ随ヒ其收出スヘキ負額事由ヲ第四款第一

大
省

節ニ掲ケシ日計簿ニ登記シ了テ之ヲ大蔵省傳票課ニ送付スルトス

○第六款 物品計算簿ヲ検査スル事

第一節 凡ソ各廳所有ノ機械書籍木石其他ノ物品ハ元高及ヒ消耗高残高等ヲ證明スル為ノ各長官ハ物品計算簿ヲ製シ毎歳二回大蔵卿ニ送致シ大蔵卿ハ之ヲ検査頭ニ付スルトス

第二節

物品計算簿ハ概テ物品ヲ類別シ譬ハ器械等ノ類其代價ヲ記載セルモノナリ故ニ検査頭ハ之ヲ調査勘算シテ差謬ナキヲ保證シテ之ヲ大蔵卿ニ出スヘシ

○第七款 造幣鑿鑄製糸製作鐵道電信其

他總ニ殖産收入ノ事業ニ關スルモノ其資用ト收入トノ計數比較表ヲ勘査スル事

第一節

凡ソ増殖收入アル事業ニ關スルモノハ其資用ト收入トノ金額ヲ比較勘査セサルヘカラス故ニ各長官ハ資用收入判明ナル比較表ヲ製シ毎三ヶ月ニ區分シ翌月二十日ヲ限リテ大蔵省ニ送致スヘキモノトス

第二節

各長官ヨリ比較表ヲ送致スレハ検査頭之ヲ受領シ表中資用收入ノ事由金額ヲ調査勘算シ差異ナキヲ保シ該比較表ヲ根據トシ各事業資用收入ノ金額合計表ヲ調製シ正院及ヒ大蔵卿ニ出スヘシ

第三節

毎三ヶ月ノ比較表一周年ノ分既ニ全備ス
ルニ至テ更ニ各事業一周年ノ資用收入ノ
金額總計比較表ヲ調製シ正院及ヒ大藏卿
ニ出スヘシ

右検査條例ハ上裁ヲ經テ確定スル處ナリ凡ソ検査
官タルモノ克ク此條例ヲ遵守シ事務順序ヲ詳明ニ
シ歳入出金穀ヲシテ苟モ錯綜十カラシメテ要
スヘシ

明治 年月

大藏卿大隈重信

検査頭安藤就高殿

